

## 平成 24 年度茨城県病院事業経営改善検証委員会（第 2 回）意見概要

日時：平成 25 年 1 月 28 日（月） 16:00～17:40

場所：県庁 901 会議室

### 【メンバー】

城西大学教授（地域医療・行政学）	伊関	友伸
日製日立総合病院長	奥村	稔
東京医科歯科大学大学院教授（医療経済学）	川渕	孝一
茨城県医師会長	齋藤	浩（委員長）
公認会計士	清水	至
茨城県総合健診協会長（県医療改革担当顧問）	山口	巖

### 【主な意見】

- 医療人材が必要だという意見を出したが、議会、人事等の職員担当者、知事、住民、いわゆる対外的により広くアピールすることが必要。
- 県立 3 病院が医師を確保するという事は、非常に困難な状況が考えられるが、積極的な意欲が出ている。
- こころの医療センターの精神科ネットワークの推進に注目している。これは全国的にも珍しいと感じる。
- 医科と歯科の連携は、精神科に限らず、他の診療科ともきちんとやらないといけないという機運が非常に高まっている。医科と歯科が別のものだという感覚を一気に変えるのは難しいが、絶対に必要なところ。
- 診療科ごとの収入や病床利用率を出した方が良い。この診療科が不採算、採算が良い、どれくらい増やす、減らすということについて、どんぶり勘定でいくら良いとか悪いを言っても、どこが良いのか悪いのか分からないと思っている。
- 事務部門の人材強化・育成というのは課題と考えている。今までは外部の人を招聘して充実という形であったが、情報管理の関係でも、病院に詳しい人間がいなくて、全部外注で人に任せていては情報漏れが起きやすい。
- 診療情報管理士について、正規職員できちんと DPC 分析できる人材を雇用するという事は、5 年 10 年先の病院計画として必要だと思う。今日、明日にできるかといったらなかなか難しいかもしれないが、そういうものを含めて事務人材を絶えず育成していく、充実していくということを次の課題として意識してほしい。